

会 議 議 事 録

1 会議名	第2回長岡市総合計画策定委員会 土地利用部会
2 開催日時	平成27年11月19日（木曜日） 午後1時30分から午後3時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(部会員)</p> <p>中出 文平 部会長 上野 裕治 副部会長</p> <p>栗山 三衛 部会員 坂本 典男 部会員 佐野 可寸志 部会員</p> <p>澤田 雅浩 部会員 白井 敏彦 部会員 鈴木 金次 部会員</p> <p>樋熊 憲子 部会員 三井田 由香 部会員 山川 智子 部会員</p> <p>(事務局)</p> <p>近藤市長政策室長 野口農林部長 安達都市整備部長</p> <p>中村政策企画課長 宮島環境政策課長 伊藤商業振興課長</p> <p>深澤工業振興課長 佐山産業立地課長 高橋農林整備課長</p> <p>小玉都市計画課長 中川公園緑地課長 鈴木政策企画課長補佐</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人 0名</p> <p>報道機関 1社2名</p>
5 欠席者名	美寺 寿人 部会員
6 議題	<p>(1) 土地利用に関する国の施策について</p> <p>(2) 土地利用上の課題と方向性について</p> <p>(3) 新たに踏まえるべき土地利用上の視点について</p>
7 会議結果の概要	第1回土地利用部会の審議内容を踏まえ、土地の利用に関する課題と方向性、新たに踏まえるべき土地利用上の視点の審議検討が行われた。
8 会議資料	<p>第2回次第</p> <p>資料1 ・土地利用に関する国の施策</p> <p> ・土地利用上の課題と方向性</p> <p> ・新たに踏まえるべき土地利用上の視点</p> <p>参考資料1 現行の長岡市総合計画土地利用構想</p> <p>参考資料2 長岡リジュベネーション～長岡若返り戦略～ 土地利用に関連する内容の抜粋</p>

	参考資料3 平成27年7月実施「魅力ある長岡を目指すための市民アンケート」(抜粋) 土地利用に関連する内容
9 審議の内容	
部会長	<p>それでは、本日第2回総合計画策定委員会の土地利用部会を始めさせていただきます。</p> <p>第1回では、土地利用構想の内容を確認し、それぞれの分野ごとに課題を発言し、事務局が提示した課題と併せて洗い出しをしています。本日は、まずその洗い出しを振り返りながら、今後の方向性について議論していきたいと思っています。</p> <p>議事(1)「土地利用に関する国の施策について」と(2)「土地利用上の課題と方向性について」、この2つについて、一括して事務局から説明をお願いしたいと思います。</p>
政策企画課長	(資料1 1、2に基づき説明)
部会長	<p>1、2ページは、国がどういう施策を考えているかということで、国土形成計画と立地適正化計画の説明をしていただきました。3～18ページは、前回の意見をまとめたものが一番左側であり、真ん中に関連計画と参考データ、右側に事務局が考える土地利用の方向性(案)という形でまとめられています。</p> <p>今日、議論いただきたいのは、それぞれの立場で結構ですので、土地利用の方向性(案)について、ご指摘いただければと思います。また、今ほどの説明に対するご質問も受けたいと思います。</p>
副部会長	<p>前回の意見を取り入れて、土地利用の方向性(案)ができたと感じました。さらに、例えば森林・農地について大変多く記述されていますが、森林が49.1%、農地が21.0%という具体的な数値もどこかで挙げていただいたほうが、分かりやすいと思いました。</p> <p>農地については、リジュベネーションでも交流のところで、「棚田などの自然景観」という言葉を使ってあるので、棚田は自然景観ではないとパブリックコメントを書きました。人為的景観であるということ認識し、取り組まないと、とんでもないことになります。この10年でどんどん減ってきているので、そのあたりを強調していただければと思います。</p> <p>森林については、特に景観の骨格であり、重要な要素であるということをごどこかに書いていただければと思います。</p> <p>農地のところで、「林地への転換」が書いてありますが、そう簡単に林地</p>

	<p>に転換できる話ではないだろうという気がします。これが世情に見合っている竹山であっても、必ず人の手が必要ですから、そう安易に、林地に転換という言葉は使えないのではないかと思います。</p> <p>まちなかの話ですが、リジューベネーションでもいろいろ言われていますが、大学の立場で言うと、造形大学は美大で、18歳から20代の若者がおり、70%が女子学生です。長岡技術科学大学は70%が男子です。ところが、ほとんど会わないのです。まちなかに出て来ても、サラリーマンの若者でしたら、タクシーで帰れるのでしょうか、学生の場合、確か9時台くらいが終バスです。もう少し早いでしょうか。長岡大学でも、11時台が終バスだから、遅くまで飲んでという状態ではないということで、その辺がもう少し遅くまで回転するような土地利用も必要です。実は、この話はつい先週、市の懇談会で出た話です。そのため、まず住民意見をきちんと活性化させないと、若者の活性化もないだろうと思います。</p>
部会長	<p>棚田については、9ページ目の一番右のところに「棚田の保全活動」というところで、「棚田」という言葉が1つ出てきます。それ以外で、出てきた場合には、棚田というのは単純に自然地ではなく、やはり人の手の入る土地ということ認識しての表現がいいというのは、そう思います。</p> <p>もう1つ大事なご指摘は、少なくとも長岡市は山の裾のかなり高い所に人が住まなくていいため、スカイラインだけでなく、もう少し裾まで含めてきちんと保全すべきだということころは、例えば、東山を見ると確かにきれいです。市営のスキー場の山肌は見えますが、それより上はもう何もないから、非常にきれいな山が見えていると思います。その辺りは、少し森林等々の、あるいは景観のところ記載していただきたい。今はあまり景気が良くないため開発は困難ですが、もしも平成の最初のバブルのようなことがまた起きると、そういう所がもしかしたら狙われるかもしれないですし、西側の山については、若干配慮していますし、それからもう少し海側の寺泊、和島などの所も非常に谷と低い山が入り組んだ里山の風景のある辺りが、今のご指摘のとおり、非常に大事なところだと思いますので、ぜひ書き込んでいただければと思います。</p>
部会員	<p>9ページの中山間地の件について、「平場しかお米が作れない」と、私も前回意識的に過激な言い方をしたと思います。それくらい、やはり意識をしないと反対の方向に力が入りません。そういう意味で話したつもりなのですが、説明の中で、なくなるといいう言い方でした。私も、多分なくなるといいう、誰か守ってくれるだろうという期待は持っていますが、今の現実</p>

	<p>の経済で周りの状況を見ていると、「なくさない」というもう一步踏み込んだ強い意識を持っていないと、難しいかなというところがあり、そういう発言をさせてもらいました。</p> <p>畜産に関しては、データで出していただき、ありがとうございました。このデータの示すとおり、日本の現状もこれと同じように向かっています。このままいくと、畜産は日本から本当になくなってしまわないかと思うくらい、今、景気の様子を見ると感じます。農業は、そもそも自然という発想の中では、必ず循環が必要で、これから先の日本の農業は、安全・安心というのが今、盛んに言われていますが、これをいかに効率的に維持しようかと考えたときには、自然の循環がうまく回っていることというのがとても大事な条件になります。それを、農業の中にも経済的な要素を考えながら組み合わせると、この畜産は、本当に大事な分野であるという認識をしていただくとありがたいと思います。</p> <p>今、部会長がおっしゃいました市営牧場の辺り、スキー場の辺り、あそこはいい景観です。本当にそう思います。スキー場だけだったら多分そんな話はいらないですし、牧場があったり、その先に花畑があったり、これがやはりみんなにとっては「ああ、いいなあ」と感じ、皆さんが長岡の状況を見たときに、あちこちに牧草地があったりすると、そこに牛や馬、あるいは羊などがいたりすると、自然豊かな感じがするのではないかと思います。</p> <p>棚田に関してもそうですが、自然は本当に人為的です。皆さんが自然と感じるものはつくられた自然で、それを「豊かな自然」という表現を一般的にしているという認識はやはり必要だと思います。</p> <p>かつて、いろいろなまちづくりの話の中で、「豊かな自然が長岡にありますね」と言われたことがあるのですが、私はその時、反発して「冗談じゃない。自然というのは厳しいのです。厳しいということを忘れて上澄みだけ考えてもらっても維持はできない」と訴えたことがありました。文面は別にいじる必要はないと思いますが、そんなところを意識の中で、少し共有させていただけるとありがたいなと思いました。</p> <p>部会長 部会員</p> <p>今ご指摘のあたり、森林地域とか自然公園地域のあたりで、もう一度確認していただければと思います。</p> <p>土地を視点を置いた方向性は、文言に書けばこれでいいのかと思いますが、これをやるための手段や、一番大事な担い手を、この中で議論するのかわからないのが分からなかったです。高齢化、担い手不足が進み、農業を誰がやるかというのは非常に心配されています。特にTPPなどにより、さらに</p>
--	--

<p>部会長</p>	<p>担い手が不足するというのもあります。そういう段階で、方向性は確かにいいと思いますが、具体的な手段、あるいはどういう担い手がどこを守るか。平場であれば誰々がどういう方向で守る、あるいは先ほど出た中山間地域は非常に難しいけれども、どういう方々が農地を守っていくのか、どういう手段で守っていくのか。文言で書いてありますが、どこまで議論をしていくのかというのが分かりません。本来、農業振興に持っていくのかもしれませんが、この部会は方向性だけなのでしょうか。</p> <p>これは総合計画の土地利用に関するものなので、今、部会員がご指摘の部分は、本来は総合計画の中の農業についての施策で、担い手の問題や農業環境、農業経営のことは議論しているべき問題です。担い手の議論は、そちらである程度しているはずです。</p>
<p>部会員</p>	<p>わかりました。</p>
<p>部会員</p>	<p>非常に勉強不足で大変恐縮なのですが、3ページに中心市街地というところがあり、こういう言葉は、今の基本構想でも使っていると思うのですが、例えば、与板は中心市街地なのでしょうか。</p>
<p>都市計画課長</p>	<p>中心市街地という言葉は、長岡市が別に「中心市街地活性基本計画」を定めており、長岡の中心市街地については長岡駅周辺、おおむね1km くらいの範囲内を中心市街地と位置付けています。一方、この資料の中にも出てきていますが都市計画マスタープランについては、「都心地」という言葉を使っています。長岡駅周辺地区から信濃川まで、千秋が原地区といった所を長岡の都心地と取り、ここは長岡だけではなく、中越地域全体の中心都市、中心部ということで、ここに広域的な都市機能を集積させようというのが長岡市の目指している都市の姿です。そういった意味合いで、今おっしゃった中心市街地という言葉と、この資料の中に書かれている「都心地区」とは、多少意味合いが違ってきます。そういうご理解をいただきたいと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>そういう観点から、3ページの土地利用の基本、方向もそうですが、3つ目に、「既存の市街地においては」に関して、「中心市街地活性化基本計画の関連計画を踏まえ」とありますが、既存市街地というのは非常に小さな範囲に限定されているとも取れるのではないかという気もします。もちろん、長岡の都心部分と都心の住宅エリア、それから、例えば与板や三島、あるいは栃尾には都市計画があり、こういった既存市街地もコンパクト化しながら、</p>

都市計画課長	<p>この中でも施策享受をしていく方針がここであつたわれていると思います。そのため、「中心市街地活性化基本計画等の関連計画を踏まえ」ですと条件がかかってしまうので、エリアが限定されたような印象を受けてしまいます。これは都市地域を支える方向性という観点ですので、もう少し表現を工夫したほうがいいのかと思います。</p> <p>少し補足をさせていただきますが、都市計画マスタープランの中では、都心地区、合併した各地域の中心部、こういった所に、生活に必要なサービスや、いろいろ資金の集積をさせてそれぞれで集約化を図りながら、例えば公共交通や幹線道路等でネットワークが結ばれた都市構造を目指しています。おっしゃるとおり、ここで記載されている空き家の問題等は中心市街地だけではなく、各地域の既成市街地の中でも発生している問題だと思えます。その対策については、中心市街地活性化基本計画だけではなく、例えば、今実施している空き家等の適正管理に関する条例や、国の空き家対策計画、それらに基づいて、長岡市もさまざまな観点でいろいろな計画をつくっていくことによって、空き家対策等も進めていく必要があると思えます。この記述は、少し議論をさせていただきたいと思えます。</p>
部会長	<p>そもそも既存市街地と既成市街地とあつて、中心市街地と都心地区があつて、全体に用語をどう使い分けるかを整理しておかないとまずいのかも思いません。既存でも既成でもいいですが、要は一度、人間が使う、都市的な使い方をしたところは、文言も使い続けるならきちんと使い続けて、そこを効率よく使うことで、自然的土地利用や農業的土地利用の部分に、人口減少下だからむちゃな開発はしないとか、住むだけの器はもう確保できているという、そのあたりの大きな柱がそもそも「コンパクトなまちをつくり」という言葉だと思つるので、そういうのが伝わるように表現してもらえればいいのではないのでしょうか。</p>
部会員	<p>3ページの「ネットワークづくりを推進します」ということで、必要性を感じている等の話がありました。2ページの図で、ネットワークは横に長くつながっていますが、今の長岡はなかなか横につながることは難しく、駅を中心に放射状にバス停が伸びている形です。放射状ではなく、ネットワークというのは、いわゆる東京で言えば環状八号線だったり、まちとまちがつながる、コンパクトシティならコンパクトシティ同士が横につながるような公共交通です。長岡市でも、ぜひ推進していくスタイルだと思います。</p>

部会長	<p>周辺部の拠点と拠点の、公共交通を一生懸命結ぶということが全部できるかということ、なかなか難しいとは思いますが。2ページ目の左の絵をよく見ていただくと、中心部にはバスが集まっているのですが、もう1つは、左のほうに公共交通が、中心部ではない所で少しハブになって、結節点になっている所があると思います。例えば、長岡でいうならば来迎寺駅や、宮内駅、北長岡駅などにバスが集まるというような、結節点になるような場所には寄せられると思います。なかなか全ての拠点をスパイダーネットワークのようにはできないかなと思います。</p>
部会員	<p>3ページでネットワークということで、道路網と公共交通網が併せて同列に扱われていますが、多分、別だと思えます。市街の外は道路網でつなげる必要がありますが、公共交通では、現状から見ると、いかに中心市街地と孤立した地域を結ぶか、確保するかということが重要です。それで余力があればという話ですが、なかなかそこまではいかないと思うのです。道路と公共交通は、少し別の体で書いていただければと思います。</p>
部会長	<p>道路は拠点化するのも必要だけど、公共交通は、なかなかそうはいかないから、取りあえず中心市街地に行けるものを、人の住んでいる所はきちんと公共交通利便地区みたいにするような方法を考えたほうがいだろうという策です。</p>
部会員	<p>例えば、観光を視点に、土地利用を考えていく観点が当然あると思います。第1回でも言っていますが、例えばよそから来て、ここに行きたい、あそこにも行きたいというときに、まず駅に戻ってから行くのではなく、ルートが何かつながっていると、もっと観光客を誘致することも可能でしょうし、そういうPRももっとできるのではないかと思います。あとは、高齢の方が、例えば駅まで来て、また行くのではなくてずっとつながっていると、もっとすんなり行けるのではないかと思います。</p>
部会長	<p>私は、公共交通にネットワークを入れたというのは路線バスのイメージで、今おっしゃるように、個別の需要に応じて、もう少しタクシーまではいかないけれども、ルートの話だとかいうことも重要だろうし、やっていくべきだと思います。</p>
部会員	<p>2ページ左側です。この居住誘導区域が水色で塗られていますが、この国の施策の場合は20年先を見据えた都市の姿ということで出てきますが、いず</p>

部会長	<p>これは長岡市のこの水色のエリアがここでという具体的な図面が出るということなのでしょうか。</p> <p>今、長岡市はそれをつくるかどうか検討している段階だと思います。</p>
部会員	<p>そうすると、今すぐではないけれども、いずれはゆるゆるとそのエリアの中に居住を促進していくという形になるかと思うのですが、それは具体的にはどういった形で、どのような手順になるのでしょうか。</p>
部会長	<p>それは去年から考えだして、まだそこまで国も決めていないので、なかなか難しいところだと思いますが、いろいろなやり方があると思います。例えば、税金を安くすることや、子育て施設が無料になるなどあると思います。ですが、そんなことをきちんと考えている自治体はまだほとんどありません。手はたくさんあって、何も強制的に移動しろということではないということです。</p> <p>緩やかな誘導手段もあるし、もう少し厳しい手段もあるし、いろいろな手段がありますが、まだ国は居住用区域に関しては、ラインは決めろと言っているけれども、どうやってやるかは決めていない状況です。ただ、いずれにしろそこに住んでいる人に「出て行け」ということはないです。</p>
部会員	<p>土地の利用という観点とは少し外れているかもしれませんが、先ほど、学生の出会いが無い、出会いの場が無い、交流の場もない、少ないという話がありましたし、今のネットワークの話も少し共通するかなと思うのが「まちの魅力」です。形をつくって、ここに集まってくださいという今の視点は、インフラの整備や道路交通網の整備にほとんど勢力が取られていて、そこに集まりたくなるような材料をどうつくるかというのは、本当はまちづくりのポイントではないでしょうか。</p> <p>そういう意味では、実はかつて長岡に転勤等で来られている奥さん方と話をしたときに、「長岡というのは非常にいい所です。」という話がありました。何がいいかというと、子どもを育てる環境としては、ここが素晴らしくいいと。理由は、学校も適当に近所にあり、自然もあり、海は近い、山もある、雪も降る、いろいろなものがあって、東京に出たいと思えば2時間という時間で行くことができ、すごく子育てをするのにいい所だと思うという話がありました。</p> <p>そのため、今のネットワークの話とともに、大学の皆さんとの交流が市民を巻き込んでいろいろな形でもっと動くようになり、さらに、それぞれの大</p>

<p>部会長</p>	<p>学が特色を持って、人を集めることのできるような、どんどんあそこに行きたいというようになれば良いと思います。かつて、中国の方が来ており、なぜ来たかと聞いたら、長岡技大の教授が書いた本に感銘して、私はこの人に習いに来たと言っていました。そのように、いろいろな魅力をもう少しベースに考え、地域の特色というものを、どうそこに生かすかという土地の使い方とかやり方というのを研究する必要があるのではないかと考えています。</p> <p>おっしゃることはごもっともで、そのあたりについては、総合計画の中には入ってくるはずで。ここでは、やはりどうしても長岡の20年後の土地利用をどうするかというので、今、部会員が最初におっしゃったところは、例えば5ページ目に経済活性化に向けた土地の高度利用のところで、駅周辺にはいろいろなものを集めて利用しようということが書いてあるので、ではこのあたりをどうディベロップするかというところだと思います。そもそも、都市計画マスタープランでも、まちなかというものをつくるということで、広域的なものを集めるということは書いてあるのですが、手段と程度、提示はしているのだけれども実現できていないというところが確かにあるのかもしれないです。</p> <p>冒頭、事務局が説明したように、立地適正化計画には居住誘導区域というより、もっと内側に都市機能集束区域を定めることになっていて、そういう医療、教育、商業などの都市的魅力のあるものはなるべく分散せずに集まったほうが良いのではないかとするのは今の国の方針であり、そのまま乗るのか、または長岡らしさを付けていくのかというのはまた考えなければいけないことだと思うので、この土地利用の構想の中に反映できればいいのではないかと考えています。</p>
<p>部会員</p>	<p>9ページにあるとおり、耕地面積等は少し減っていく方向にあります。10ページにも絡んできますが、長岡はお米に依存しているところがものすごく顕著にあります。将来的に、例えば畑作ということで、作物をなるべく、長岡で生産されたものを中心にしていくことで、土地利用に関する田んぼのシェアや畑のシェアは、減っていくのはまずいのでしょうか。用地として農地が減って行って、どちらかというとお米に依存する形を少し脱却したい方向に長岡はいるのでしょうか。それとも、相変わらずお米を中心にするということなのでしょうか。</p>
<p>農林部長</p>	<p>今ご指摘があったように、長岡は米の割合が非常に高いということで、近年の動きとしては、米菓の売り上げやTPP関連といったものも含めて、米</p>

部会員	<p>依存から畑作へという施策は市としては動いていません。ただし、啓発的にそういった状況を踏まえながら、他の作物、またお米の中でもいわゆる食用米から飼料用米等、今は輸出米もクローズアップされてきていますので、単なる食用米から多目的な作物へということで促しています。そういう状況です。そんな中でいわゆる畑作もぜひ、例えばJAとの話し合いの中でそういったところはいかがですかとか、そういう働きかけはしています。</p> <p>田んぼや畑の維持にもものすごく労力を使うので、これから担い手が高齢化していくに従い、なるべく負担の少ないような作物を作成する方向という、そういう含みはないのですか。</p>
農林部長	<p>農業の政策の中で、いわゆるコストの縮減ということで、例えば農作においては、機械の購入や農産物の購入機械の助成、あるいは作物によっても奨励作物に対しての交付金など、そういったものはあります。</p>
部会長	<p>それは、第1回目の時に、維持できる農地と、維持するのが難しいというか、中山間地等で本当に農地として続けていくのがいいのかということもあるというご指摘が何人かの方からあったと思います。すごく大規模な圃場整備された農地であれば、かなり高度化できるし、田んぼは非常にそういうふうに高度化していればできないことはないのかもしれないですが、生産性そのものはそんなに労力なく、今までほどではないかもしれないということがあるのかもしれない。</p> <p>農地が減っていく、イコール都市的土地利用が増えていくという構図だけはやめたいです。そうすると、農地をつぶして困らないような土地利用というのを、きちんと確認しておかないといけないかと思います。要するに、都市的土地利用はこれほどいらんかと思っています。人口は減っていますし、「コンパクトなまちづくり」という言葉で表現し、それがポジティブの部分で、ネガの部分で農地だとすると、ネガの部分はどう維持していくかというのはまたもう一つきちんと考える必要があります。ネガティブのネガではなくて、写真のネガと、ずっとこの関係でいうとそういうことだと思います。</p>
農林部長	<p>補足ですが、今、農地転用の手続きで、これは国から、いわゆる指定した市町村への権限移譲ということで今準備が進められています。具体的にはこれから内容が出てくるのですが、その基準の中で今言われているのは、現状の農地をそのまま後で維持するというのが一つの指定市として受ける、そのような細かいところはこれからですが、基本的には優良農地を守ることを、</p>

<p>部会員</p>	<p>転用の許可権限の指定都市にする条件に国はしてきますので、またそれによって保護される部分は出てくるかと思っています。</p> <p>今の農地が減るかどうかという話ですが、都市という中で、では東京はどうかと言うと、生産緑地ということで、都市の中には農地があつていいのだとあります。今まで長岡では、まだあまり言われていませんが、市民農園があります。今後、まちの中で空き家が多くなって大変というのがありますが、市民農園は、実は健康管理などにすごくよく、今まで農業を考える視点の中で固定的に生産、作業だけではなく、市民農園というまちの中での農地と、みんなの健康のための空間ということでも少し考えていくと、都市の中の農地は増えるということは今後あるかと思えます。</p> <p>宅地であってもそれなりにきちんと管理すれば、本局は農地への転用は認めていますので、利用の形態がそういうふうになれば、そういう形もできる。ただ、農園土壌が、農地として認める農地ということと少し意味合いは違うのだらうと思いますが、そのあたりも今後の中では考えていけるというのも一つの方法かという気がします。</p>
<p>部会長</p>	<p>今後、人口が減ってきて、例えば、長岡の市街化区域の中で農地が固まって残っていれば、その部分を市街化区域から外せばいい。けれども、そうはいかなくてばらばらに農地がある部分については、確かに、オープンスペースというような意味合いで使える部分で、もう人口は増えないのだから、無理やり人を住まわせるとか、都市的土地利用を使うのではなく、森林地でもいいし、農地でもいいという形で、密度を高くする必要はなく、ゆったり住んで、隣に畑や何かがあつてもいいというようなことは、長岡の将来構想として描けると思います。ただ、農地なのかどうなのかというと、法律上は、市民菜園は農地扱いではないので、そこは少し難しいですが、そのあたりのところであまりしゃくし定規に書かずに、市民が身近に触れ合える緑地としての菜園での農地とか、そこは考えなければいけないと思います。</p> <p>今、部会員がおっしゃったように、このご指摘の今ある土地利用をどのように使っていくのかも、20年くらい先になると、人口は数万人減ると言われるので、その時いらなくなった土地をどう利用するのかというのは、単純に空き地の問題とか空き家の問題とかいうだけではなく、既に今の市街地の中でも空いている土地というか、例えば区画整理をしましたが家が建っていない土地というのは結構いっぱいあります。そういう所をどうするか、農業的土地利用で使っても構わないようなことを提案していくのも一方ではあると思いますが、やはりコンパクトにしなくてはいけないという、そのあたり</p>

<p>部会員</p>	<p>を長岡市としてどう考えるかということだと思います。</p> <p>16ページですが、総合計画の中の土地利用部会を踏まえて考えると、3つほど方向性が出ているのですが、少し順番を変えてもらったほうがいいかと思えます。結局、ハザードマップというか、その土地が持っているリスクに関する情報を、なるべくきちっと市民の皆さんと共有するというのが、第一にあると思えます。そのため、地盤条件も含めていろいろなリスク状況を市民の方々と最初に共有する。そうすると、短期的にはここで書かれているような、自分たちのリスクを認識して、どういうふうに避難をするかという自助・共助への対策につなげてもらうことになります。それで、長期的には10年かかるとか、もう少し時間がかかりそうですけれども、被害が拡大することを防ぐことになります。つまり、無用な被害の拡大を防ぐために土地利用の転換をしていくという流れなのではないかと思っています。「抑制」というものの根拠みたいなものを共有した上で、みんなでこういう状況になったらどうするのかということ、まずきちんと把握する。リスクに関しての対応というのは、どうしても、すぐにはなかなか進まないところもありますが、多分、第一歩は、そういった情報をうまく共有することだと思います。ですから、土砂も含めた、そういったものを皆さんと共有する。かつては、そういうリスク情報を公開することは、個人資産としての土地の地価が下がるということで毛嫌いをされたところもありますが、むしろ、その個人資産の総額が低下することのリスクよりも、何かあったときに市民が被害を受けることのリスクのほうが今は大きいだろうと思えますから、それを公開するという理屈は立つだろうと思えます。</p> <p>逆に言うと、行政がその情報を持っているにもかかわらず、住民と共有しないことのほうが、実は問題が大きいのかもしれなくて、それをまず共有するという、土地利用の方向性という意味では、少し変かもしれないですが、そういうことをやった上でやるということだと思います。</p> <p>そのため、避難方法についての情報を把握するというよりは、避難方法を自分たちで考えてもらえるだけに足る情報を取ること、きちっと土地利用、土地という視点を中心として提供するということなのだろうと思えます。</p>
<p>部会長</p>	<p>16ページの方向性（案）の1番目と2番目を入れ替えて、1番目については、そのリスクの情報について、市民と情報を共有して、それで短期的にどう動くかということと、2番目に中期的な対応として、いずれ、危険な場所については都市利用からの転換を図る。これは何か文言がおかしいですね。</p>

<p>部会員</p>	<p>「おそれのある土地の都市利用の転換」はおかしいので直しておいてください。</p> <p>冒頭で、耕作不適地の林地計画という意見が出ていましたが、そもそもこの林地化の具体的な手法というのは、当然いろいろ考えられるのですが、恐らくこの流れでいくと、自然に任せての林地化かと思います。そもそも森林と林業というのはまた別の視点で、森林協同組合は、林業をなりわいとしている組合員の集合体ですので、やはり森林、作業林を目的として、森林の整備を中心に主体で行っています。</p> <p>ただ、やはり手つかずの自然林、天然林といったものの多面的機能という観点からは、そういった整備をしてないわけではないですが、やはりこの耕作不適地の林地への転換という、言葉では非常に素晴らしいのですが、なかなかイメージが湧かないという状況です。</p> <p>例えば、耕作放棄地というのは、やはり減反が進んだ奥山のほうが主体になるかと思いますが、当然、植林も奥山から始まっており、実はそこに人の手が入った作業林があります。ただ、その耕作放棄地とともにそのアクセス道が使えなくなるなどで、やはりこの7ページにも書いてありますが、守るべき農地と諦めるべき土地、実は作業林に関しても、やはり今、同じことが言えるのが課題として捉えているところです。この林地化という表現が、何か考えがあってこういう表現をされたのかどうか、もしその点が分かれば教えていただきたいと思います。</p>
<p>農林部長</p>	<p>確かにおっしゃるとおりで、非常にきれいな言葉になっています。元は、隣に記載してありますが、現行の総合計画の基本構想で平成18年に制定した時も、林地化というようなこともうたっています。基本的にはそれを踏襲した言い方になっています。ただ、今ほどご意見をいただきましたので、再度、このあたりの表現について、あまり夢のない書き方をすると、全くそのままにしておきますと言うわけにはいきませんので、そのあたりはまた検討しながら修正したいと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>林地化は非常に難しいというのは分かりますが、中山間地域の棚田などで、水を張っている場合は災害が少ないのですが、そこで一回耕作をやめて水を張らなくなると亀裂ができてしまいます。そうすると、非常に崩れやすくなって、災害に結び付きやすい状況になるので、そこを自然に任せたままの林地化というのは、非常に危ない状況がかえって出てくると思うのです。そういう点で、やはり積極的な林地への転換というのが必要ではないかと私</p>

<p>部会長</p>	<p>は思います。ただ、難しいのはわかるので、先ほど少し申し上げましたけれども、方向はいいが、手段をどうするのかというのが非常に難しいところで、そこも議論しないとイケないのではないかと感じています。</p> <p>総合計画は大枠を定めて、その総合計画の下で林業の部門の計画、農業の部門の計画がきちんとつくられるはずで。そこは、総合計画が今年度中に出来上がれば、来年度から林業部門、農業部門、それぞれで自分のところの計画をブレークダウンしてつくらなければならないはずなので、そこでは具体の施策等、もっと密着して書いていくことになると思います。</p> <p>総合計画は、その市の憲法みたいなもので、その下に個別法がくることになっていきますが、そこで、今、部会員がおっしゃったようなところは詰めていくとして、この方向性が正しいというところは示しておかないといけないということでご理解をいただければと思います。</p> <p>そういう意味では、総合計画を読むと、何か知らないけれど総合的で夢物語しか書いてないみたいに思われがちですが、書いておかないとできないということもあるので、そういうふうにご理解ください。</p>
<p>部会員</p>	<p>内容ではないのですが、文言で「防災で日本一を目指す」とありますが、どういう評価基準なのか分かりません。掛け声でやるのはいいと思うのですが、客観的に言っているだけです。</p> <p>もう1つ、3ページで、「長岡リジュベネーション」ということで、副題が「長岡若返り戦略」となっています。ここで若者という表現が、4回、5回と出てきています。この表現でいくと子育て世帯は入っていないのでしょうか。「若者はもちろん、経験豊かな世代や子育て含め」と書いていますが、具体的にこの若者の世代がどういうのかよく分かりません。中身がよく分からないのですが、若者という表現が目につくというのを感じました。</p>
<p>市長政策室長</p>	<p>まず、リジュベネーションというのは英語で「若返る」という意味なので、人もまちもずっと若々しくありたいという気持ちを込めて、この名称にしました。子育て世代ですが、若者の中に入っています。この土地利用の方向性の中の記述はちょっと適当ではないのかもしれませんが、当然、子育てをする世代も若者世代であり、20年、30年後に、まだまだ彼らが主役になるという意味を込めて、若者と言っています。大体、今のところ想定しているのは40前、まさに30代くらいまでの人たちを若者と捉えています。記述的なものについては、もう一度考えたいと思います。</p>

部会長	<p>「日本一安全なまち」は前回の総合計画の掛け声で、どなたかおっしゃっていましたが、現実の世知辛いことばかり書くわけにはいかず、きちんと夢も書いておかなければいけないし、目標は必要だと思うので、逆にオーバーラップし過ぎたほうがいいのかもしいかなと思いますが、到達すべき目標として書いてあるということでご理解いただければと思います。</p> <p>今、室長の言われたところは少し吟味してください。下の中身をもう一度読んで、書き直してもらえばいいのではないかと思います。総合戦略はもう決めてしまいましたから、その記述を持ってくるしかないと思います。</p> <p>議事がもう1つ残っていますので、先に進めます。3番目の、「新たに踏まえるべき土地利用上の視点について」ということで、資料の最後のページになりますが、これに基づいて、説明をお願いします。</p>
政策企画課長	(資料1 3に基づき説明)
部会長	<p>新たに踏まえるべき視点ということで、5つ、説明をいただきましたが、質問あるいは意見がありましたら承りたいと思います。いかがでしょうか。</p>
部会員	<p>「地球温暖化・気候変動への対応の視点」の2つ目に「歩いて暮らしやすい」で、車を使わないという意味での低炭素化という視点ももちろん大事と思うのですが、森林の整備や、自然環境への配慮など、海があり、山があり、川がある長岡ならではの、そういった自然環境の関係のことも盛り込んでいただけたらと感じました。</p>
部会員	<p>災害に強いまちづくりというところで、優良農地の確保というところが至上命題ですが、田んぼを使って水の一時貯留をやる、田んぼダムという取り組みが県内にもあちこち取り組みをされていますが、ぜひ長岡市でもそういう取り組みをこの中に入れていただければありがたいという気がします。</p>
政策企画課長	<p>今言われているとおり、災害に強いまちというところで、今後、しっかり防災本部や、防災の担当部局などと、話を進めながら、方針については詰めていきたいと思います。</p>
部会員	<p>非常に素晴らしい、新しい土地利用の視点というのが提案、提示されていると思います。今まで、都市地域、農業用地、森林・自然公園地域という、基本的経済的な議論だったので、こういう大きな視点に立った議論がこれから始まっていくので、非常に期待していますが、この土地の視点は、今の基</p>

<p>政策企画課長</p>	<p>本構想の基本的な考え方、基本方針につながっていくものか、それとも、またこれが細分化されて要件だけ土地利用の方向になっていくのか、どういう方向で考えられているのかを聞かせていただければと思います。</p> <p>本日の資料ですが、新たな視点ということで示した中で、事務局が気づかない話や、こういうところもというご意見もいただいて、最終的には、総合計画の中で盛り込むような土地利用構想の章立てについて、今日、あるいは前回いただいた意見等を踏まえて、第3回に向けて校正をかけていきます。分かりやすくという意味で言えば、今、言われるような観点でのまとめ方ももちろんあるでしょうし、新たな考え方を、今後していきながら、詰めていきたいと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>基本方針のある部分を構成するとは思いますが、これは「新たに踏まえるべき」なので、今までの総合計画の基本方針が間違っていたというよりも、それを追加したりするということに意味合いがあると思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>3番目の「集落地域」の定義を教えてください。</p>
<p>農政課長</p>	<p>集落地域ですが、市の中で、例えば市街地や、いわゆる都市部をイメージする言葉がありましたけれども、それに対して、いわゆる農村地域というイメージで、集落地域というようなイメージではないかと思います。</p>
<p>部会員</p>	<p>各集落に全て、医療・福祉、生活サービスをつくるのですか。このあたりがよく分らないです。</p>
<p>部会長</p>	<p>それは、立地適正化計画は都市計画区域の中の、市街化区域か用途地域が備わっていて分けられないので、それ以外の所にも、長岡市にはいっぱい拠点があるだろうと思います。集落と言われるものもあるし、集落よりももう少し規模の大きい、例えば小国の真ん中辺りや、寺泊などの集落とかありますね。そういうものも含めて、もう少し言葉を吟味したほうがいいかもしれませんが、立地適正化計画で誘導したり拠点を集めたりという所ではない所についても、拠点をつくったり、ネットワークを組んでみたりすることが必要だということで、2番目と対なのだと思います。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>言葉についてはこれからも整理しますが、今のご質問に一番近いイメージは、1ページ目の下の都市のイメージ図で、ここを少し意識したところです。</p>

部会員	概念は大体分かっているのですが、ちょっと表現が気になります。
政策企画課長	今後さらに検討しようと思います。
部会員	<p>先ほどの長岡リジュベネーションのところで、若者と、何か少し心にひっかかる感じがします。</p> <p>これから先は、多分、気持ちが若いけれど元気な人と、そうでない人の格差のほうが大きいので、年齢ではないと思うのです。そのため、そのあたりを少し意識していただきたいと思います。</p> <p>少し気になったのが、この「日本一災害に強いまちの実現」というところです。今のお話と少しかぶりますが、インフラの長寿命化というよりは、安全とか安心とか、何かそういった文言を盛り込んだほうがいいのかと思います。</p>
部会長	<p>現行の総合計画は地震を受けてつくっているもので、もう前回の総合計画の時に安全・安心は実は至上命題になっていたもので、その点をより強化するときこういう書き方になっています。安全・安心は、長岡の場合にはこのベースには絶対あるはずだと思います</p>
部会員	<p>現行の総合計画では、安全・安心のクライテリアが大きく挙がりましたが、今回はまた普通の感じに戻ったという感じでいいと思いますが、ベースとしてはそういったことが組み込まれていると思います。</p>
部会長	<p>これで、視点とかで少し誤解を生むようだったら、考えたほうがいいのかと思います。</p>
部会員	<p>「日本一災害に強いまちの実現」は頑張りたいと思っていますが、それが、いわゆる治山治水とか、排水路の整備とか、そういうハードに偏っているというのも、ちょっとどうかと思います。</p> <p>先ほどの話で言うならば、リスクから守るという対策がここに書かれているけれども、そもそもリスクが少ない所で暮らす、生活をするという、そのリスクから遠ざかるということもここに必要で、今の1つ目のところが災害の被害を防ぐということであるならば、そもそもの災害の規模を減らしていくという土地利用というのがあるというのが、もしかしたら、新たに踏まえるべき土地利用上の視点かなと思います。</p>

部会長	<p>防災というだけではなくて、減災とか、そういうふうによく呼ばれるものですね。</p>
部会員	<p>そうです。そういったものの総合性で結果的には被害を軽減していくということだろうと思います。そのため、強いかどうかよく分からないのですが、災害が起こったとしても、被害自体を極小化することが結果的には、総合計画の中には組み込まれてもいいのかと思います。</p>
部会長	<p>書くか書かないかは別として、長岡は新潟県のへそに位置していて、長岡を通らなかつたらどこにも行けないわけです。県内も県外も、長岡市を通らないと行けないという位置にあり、なおかつ、新幹線も高速道路も通っていて、中越の中心で、長岡市がより広域な部分の中心であることを踏まえて、より高次なものがいろいろあるというような記述があってもいいかと思えます。医療の基幹病院などはまさにそういう位置づけだと思いますし、それ以外にもいろいろな施設が、長岡市に1つというよりも、中越に1つ、県に1つと言ってつくってもらった施設もいくつもあります。新潟県は上越・中越・下越とあり、全部が長岡というわけにはいかないと思いますが、少し上手な書き方で、長岡が中心としてきちんと健全な姿を保っていないと、周りをもっと大変になるというような意識を持って、何か書いておいてもいいかなと思います。</p> <p>これは、長岡というものの中心部、もしくは、長岡を出た全体がそういう意味合いで今後ますます重要になってくると思うので、そのあたりを意識していただくといいかというのが思いです。視点としてどう書くかは、他市にけんかを売るみたいな書き方はできないとは思いますが、ぜひご検討いただければと思うところがあります。</p> <p>それでは、全体をとおして何か、もう少しこの部分はきちんとっておかなければいけなかったという部分がありましたら、承りたいと思います。いかがでしょうか。</p> <p>それでは、本日予定していた議事はこれで終了とさせていただきますが、土地利用上の課題と方向性については、もう一度精査していただき、今日の意見を踏まえて次回に向けていただくことと、新たに踏まえるべき土地利用上の視点は、どういうふうにするのだということも含んで、ぜひ事務局のほうで組み立てていただき、第3回に結びつけていただければと思います。</p> <p>では、議事が終わりましたので、事務局にお返ししますので、よろしくお願ひします。</p>

政策企画課長	(第3回の開催日程について説明)
事務局	本日は貴重なご意見、ありがとうございました。以上をもちまして、第2回の土地利用部会を終了させていただきます。